

令和元年度 病害虫発生予察 特殊報 第 1 号

病害虫名： キュウリ黄化えそ病

病 原： メロン黄化えそウイルス

Melon yellow spot orthospovirus (MYSV)

対 象： キュウリ

1. 病害虫情報の内容

キュウリ黄化えそ病の発生を都内で初めて確認した。

2. 発生経過

- 令和元年 11 月に東京都多摩地域の施設栽培キュウリにおいて、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を呈する株が確認された(図1~3)。
- 発症株を対象として、当所で ELISA 法及び RT-PCR 法により検定を行った結果、メロン黄化えそウイルス(MYSV)が検出され、キュウリ黄化えそ病であることが確認された。
- 本病は、平成8年に高知県で初めて確認されて以来、西日本を中心に 24 県で発生が確認されており、関東では都を除く全県で発生が確認されている。

3. 病徴

葉では、はじめ葉脈透過を生じ、症状が進展するとモザイク、えそ斑点、退緑斑点、黄化など様々な症状が現れる。一見すると要素欠乏による症状と類似している。症状が進むと生育が抑制されて収量が低下し、激しい場合には枯死する。果実では、まれに表面にモザイク斑を生じることがある。

4. 病原ウイルスの諸性質

- 本ウイルスは、ミナミキイロアザミウマによって媒介される。他のアザミウマ類の媒介については不明である。ミナミキイロアザミウマは、幼虫時に本ウイルスに感染した植物を吸汁することで保毒し、死ぬまでウイルス伝搬能力を保持するが、経卵伝染はしない。また、種子伝染、土壌伝染はしない。汁液伝染力は低いため、管理作業で伝染する可能性は低い。
- 本ウイルスは、自然感染ではウリ科メロン、スイカ、シロウリ、ニガウリが報告されている。接種試験ではウリ科(トウガン、カボチャ、ヘチマ)、ゴマ科(ゴマ)、ゴマノハグサ科(キンギョソウ、トレニア)、ツルナ科(ツルナ)、ナス科(ペチュニア)、ヒユ科(ホウレンソウ)及びユウガオ科(ユウガオ)で感染が確認されている。

5. 防除対策

- アザミウマ類の防除を育苗時から徹底する。
- 定植苗は、アザミウマ類の寄生やウイルス症状がないことを確認する。

- (3) 施設栽培においては、施設開口部に防虫ネット(0.4mm 目合以下又は赤色ネット等)の設置、近紫外線除去フィルムの利用によりアザミウマ類の施設内への侵入を防止する。
- (4) アザミウマ類の薬剤感受性の低下を防ぐため、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。また、青色粘着板を利用してアザミウマ類の早期発見に努める。
- (5) 雑草はアザミウマ類の生息場所となるので、ほ場内外の除草を徹底する。
- (6) 発病株は速やかに抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、完全に枯死させてから処分する。なお、芽かき処理等で取り除いた茎葉等も同様に処理する。
- (7) 栽培終了後は、全株を地際から切断または抜根し、施設を1~2週間程度密閉してアザミウマ類を死滅させる。



図1 全身に発病した株



図2 モザイク症状



図3 退緑、えそ斑点症状